

進行報告__長野県

2026.6.26 2026年度助成事業「支援体制の整備と被災想定訓練の実施」
進行報告オンラインミーティング

人権尊重型被災者支援システムの構築 及び地域受援体制整備事業

認定特定非営利活動法人 長野県NPOセンター
プロジェクトマネージャー/災害支援事業統括

古越 武彦

「一人一人を尊重する」信州型被災者支援システム (人権尊重型被災者支援システム)

災害時において、すべての被災者の人間としての
尊厳と基本的人権を最大限に尊重し、誰ひとり取り
残さない支援体制を構築することを目的とした新し
い支援モデル

実働訓練（実証実験）の実施

実働訓練の被害想定

【地震の想定】

- ・12月12日(金)5:47に、長野県中部を震源とした直下型の地震が発生
- ・マグニチュード7.3(阪神・淡路大震災クラス) 県内最大震度7
- ・長野県災害時支援ネットワークでは、先遣隊を松本市に派遣
- ・12月13日(土)に支援拠点を設置、翌14日(日)から支援活動を開始

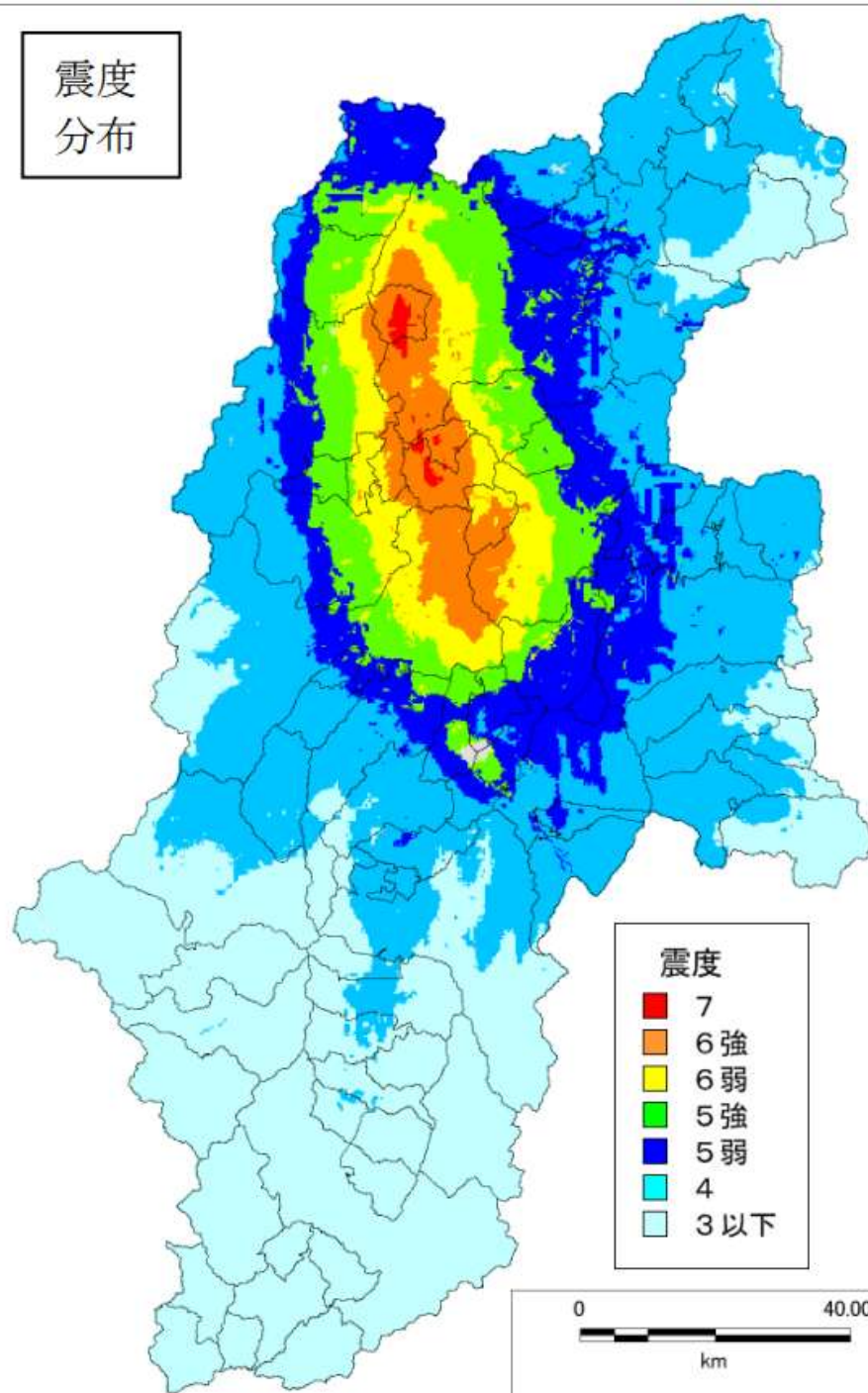


【12月14日(日)の状況】

- ・松本市を中心に広範囲で甚大な被害が発生
- ・今もなお、懸命な救助・救命活動が続けられている。
- ・指定避難所は、既に満杯の状況
- ・非指定の避難所が数多く開設
- ・地震(余震)がひどく、車中泊避難者も数多い模様
- ・指定避難所以外の被災者の把握は出来ていない(出来ない)。
- ・液状化、土砂崩れなどの影響により、被災地への移動が困難
- ・山間地域では、土砂災害も起きており、家屋への被害も起きている。
- ・広い範囲で、停電、断水が起きている模様
- ・長野県の震度5弱以上の全市町村に災害救助法が適用されている。
- ・住家の被害棟数はどれだけになるのか、よくわからない状況
- ・高速道路は、緊急車両(災害対応用車両を含む)のみ通過可能



震度
分布



訓練構成

訓練項目		内容
12月13日(土) 備蓄拠点訓練 (伊那市) ※仮想拠点	①備蓄拠点の設置	・資機材の調達・搬入・保管
	②資機材の搬送	・資機材の積込・搬送
	③支援拠点の設置	・支援拠点の設置・運営
		
12月14日(日) 避難・支援拠点訓練 (松本市)	①被災者支援本部の運営	・統括本部の設置・運営
	②避難・支援拠点の運営	・避難施設の運営 ・支援拠点の運営
	③避難者への対応	・避難者対応 ア 食支援 イ ジェンダー視点での支援 ウ 子ども支援 エ 相談体制の構築 ・要配慮者対応
	④近隣の指定避難所への支援 ※松本市民の避難訓練と連動	
	⑤指定避難所外避難者への支援	
	⑥医療	・DMAT・DWATによる医療と福祉の連携 ・臨時福祉避難所の設置 ・災害医療コーディネーターによる調整 ・DWATによる福祉支援 ・災害VC設置準備
	⑦福祉	
	⑧物資の調達・調整	

2025年度実働訓練(実証実験)のイメージ

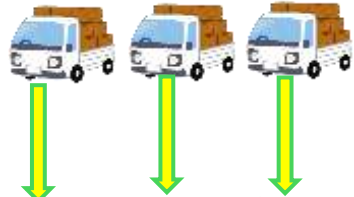
凡例

- : 資機材・物資の流れ
- : 支援の流れ
- : 医療・福祉の流れ

備蓄拠点訓練
伊那市

避難・支援拠点訓練
松本市
(日本財団助成金)

※12月11日(木)



①備蓄拠点の設置

※12月12日(金)



②資機材の搬送

※12月13日(土)

③支援拠点の設置



②避難・支援拠点の運営

③避難者への対応



①被災者支援本部の運営



※訓練された支援者

※12月14日(日)

想定:発災3日目

⑤指定避難所外避難者への支援



④近隣の指定避難所への支援



⑥医療・⑦福祉

⑧被災地1.5次避難所
(福祉避難所)

2025年度助成事業(長野県)実働訓練の様子

2025年12月14日(日)



2025年度助成事業(長野県)実働訓練の様子

2025年12月14日(日)



長野県で力をもっている方がたくさんいる。その方たちが力を合わせられる場所をわれわれはつくっただけ。
(長野県災害時支援ネットワーク 古越氏)

「つなぐ人」・「つなぐチーム」とは？

長野県域における「つなぐ人」戦略

- 1 組織の壁を超えるバウンダリースパナー「つなぐ人」の創出
- 2 「つなぐ人」を組織化し、官民融合の「つなぐチーム」を創設
- 3 「つなぐチーム」による被災者支援を制度化

※仕組み(システム)とすることで、人に頼る現状(属人)から脱却し、常に一定の被災者支援のための機能を保持する環境を創り出す

○ 「つなぐチーム」の編成

1 「つなぐ人」の選出

- ・行政（都道府県）
- ・社協（都道府県社協）
- ・災害中間支援組織

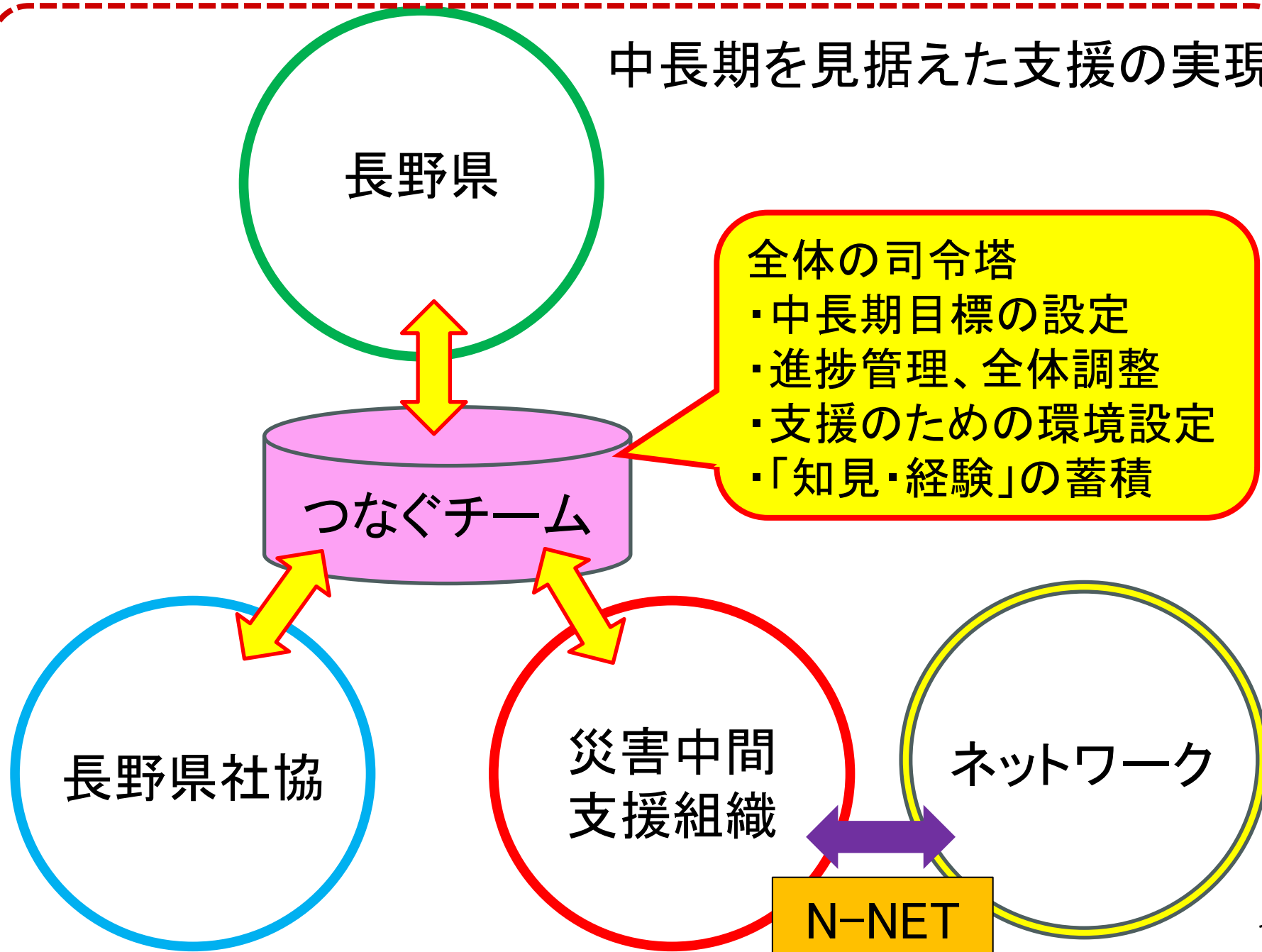
2 機能

- ・蓄積された経験を共有することで効果を発揮
- ・つなぐ人をチームとすることで互いの欠点を補完
- ・機能として、常に知見を蓄積

3 つなぐ人の条件

- ・地域を知っている
- ・組織を知っている
- ・災害を知っている
- ・場づくりができる

中長期を見据えた支援の実現



人権尊重型被災者支援システムの構築及び地域受援体制整備事業

事業1：人権尊重型被災者支援システムの構築

- ・支援標準化(スタンダード)
- ・分野別支援集約化(クラスターアプローチ)

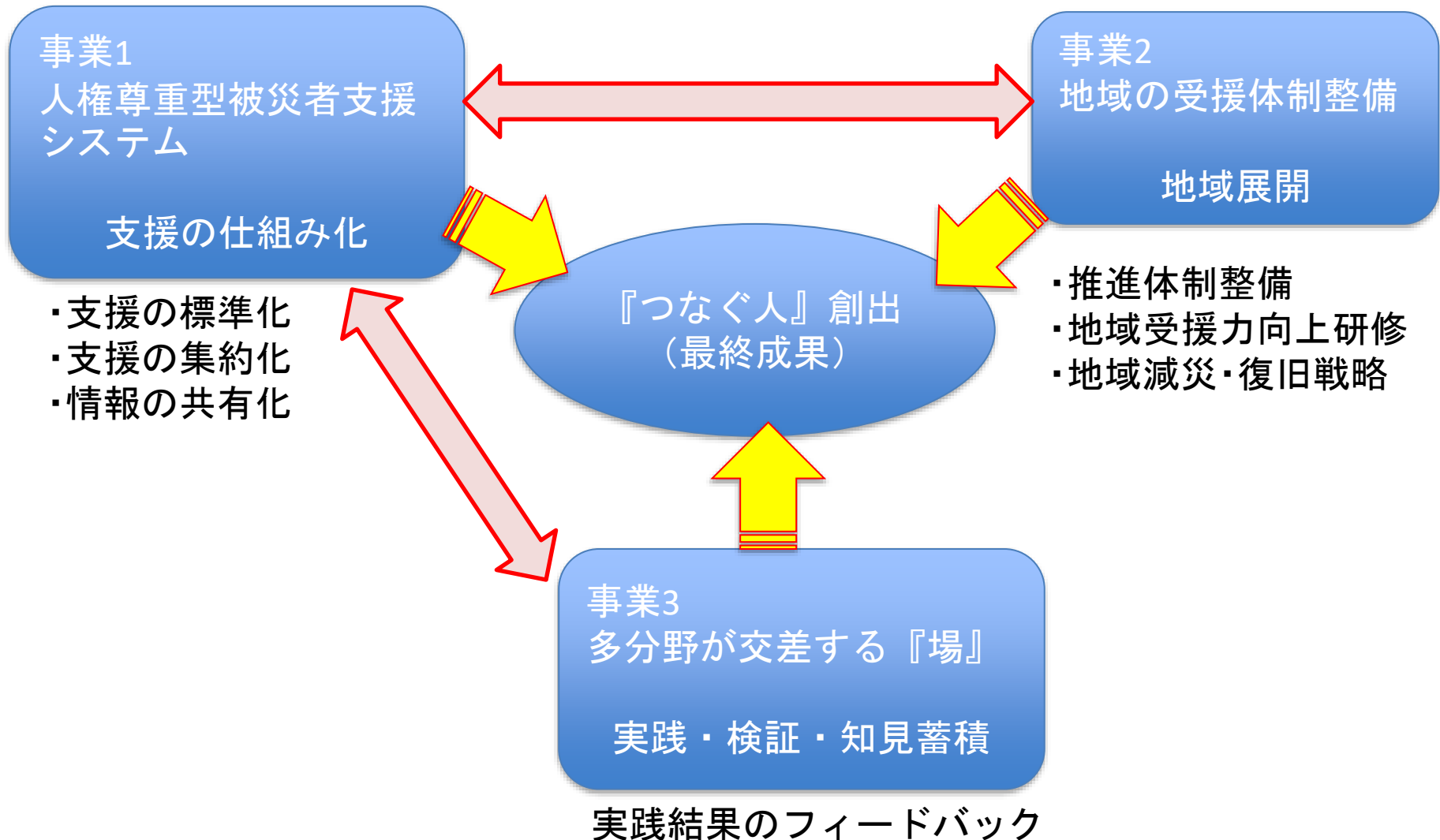
事業2：地域の受援体制の整備

- ・推進体制整備(上伊那災害時支援ネットワークへの伴走支援)
- ・地域受援力向上研修の実施
- ・減災・復旧戦略策定

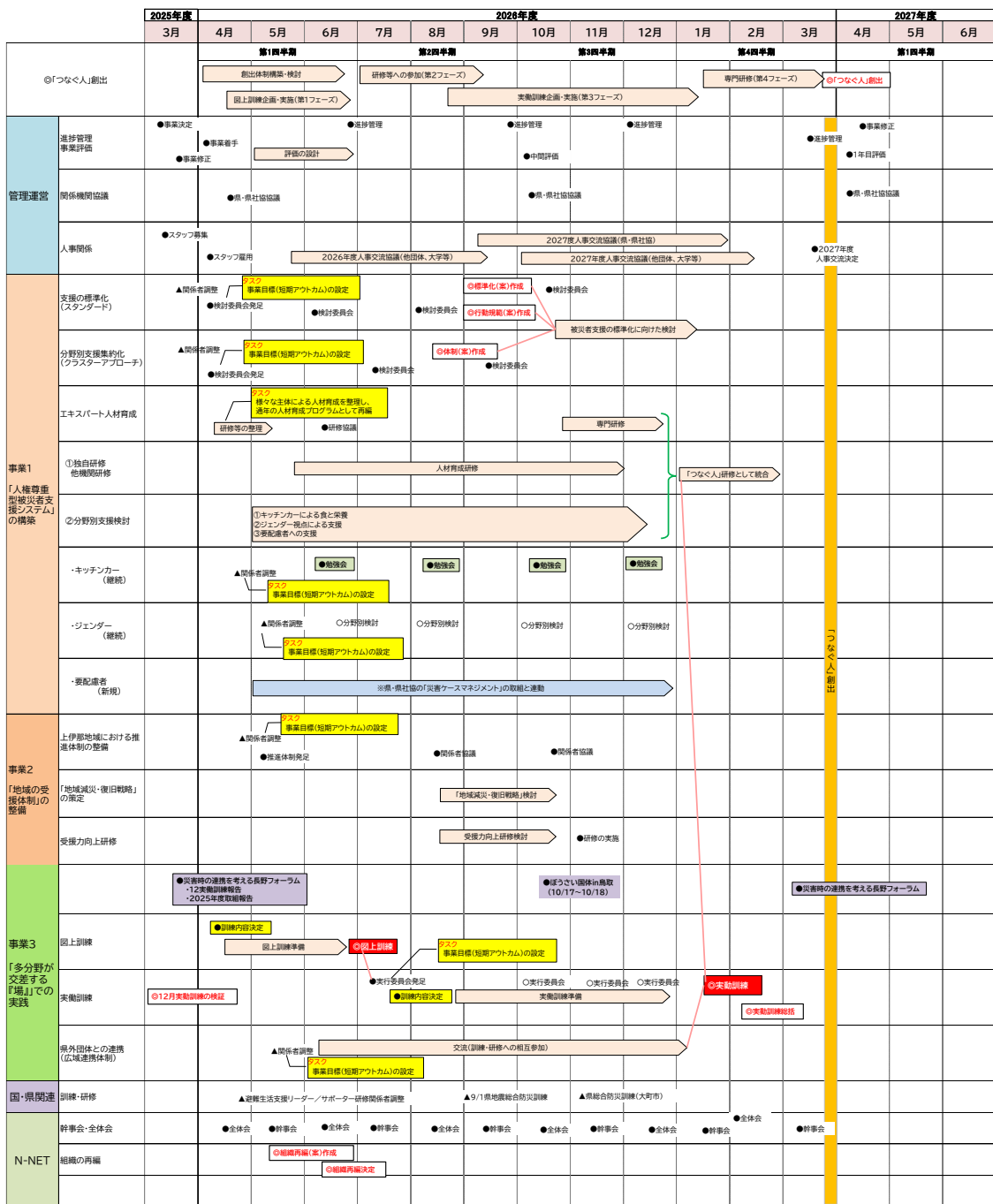
事業3：多分野が交差する『場』での実践

- ・図上訓練・実働訓練
- ・分野別検討(食支援、ジェンダー、要配慮者支援等)

『つなぐ人』創出プログラム 全体像



「つなぐ人」創出プログラム(「人権尊重型被災者支援システムの構築及び地域受援体制整備事業」スケジュール)



事業の取組状況

事業1:「人権尊重型被災者支援システムの構築」取組状況

①有識者協議

第1回:4月17日(金)15:30～17:30(ハイブリッド)

第2回:5月29日(金)17:00～19:00(オンライン)

※事業全体の基本構想構築

②「支援の標準化検討委員会」大阪公立大学 菅野先生

第1回:7月17日(金)10:00～12:00(オンライン)

第2回:8月20日(木)13:00～15:00(対面:合同開催)

第3回:9月17日(木)10:00～12:00(オンライン)

③「支援の集約化検討委員会」兵庫県立大学 松川先生

第1回:7月14日(火)15:00～17:00(オンライン)

第2回:8月20日(木)13:00～15:00(対面:合同開催)

第3回:9月15日(火)15:00～17:00(オンライン)

事業1:「人権尊重型被災者支援システムの構築」取組状況

④分野別支援検討

ア キッチンカーによる食と栄養の支援

- ・「ながの移動販売つなぎ局」との協議など

イ ジェンダー視点による支援

- ・検討委員会の設置、協議

ウ 要配慮者への支援

- ・長野県社会福祉協議会とのスタッフ共同雇用(1名)
災害ケースマネジメントへの取組など
- ・特に配慮を要する子どもへの支援検討

事業2:「地域の受援体制の整備」取組状況

①上伊那災害時支援ネットワーク事務局等との協議

第1回:5月26日(火)9:00～11:00(対面:伊那谷財団)

第2回:6月12日(金)9:00～10:00(オンライン:事務局)

第3回:6月23日(火)11:00～12:00(対面:事務局)

②地域企業等との協議

5月29日(金)企業との協議

※(株)パネックス長野工場(伊那市):ロングライフパンの製造

③地域受援力向上研修

6月18日(木)研修委託予定者との協議

※AIを活用した研修内容のレクチャーなど

④地域団体との連携

6月13日(土)みのわBOSAIネットワーク(上伊那郡箕輪町)

※ペット防災イベントへの参加

事業3:「多分野が交差する『場』での実践」取組状況

①図上訓練

9月1日(火)13:30～16:30

長野県長野市

長野県庁災害対策本部室

②実働訓練

1月22日(金)～23日(土)

長野県長野市

③関連団体等との協議

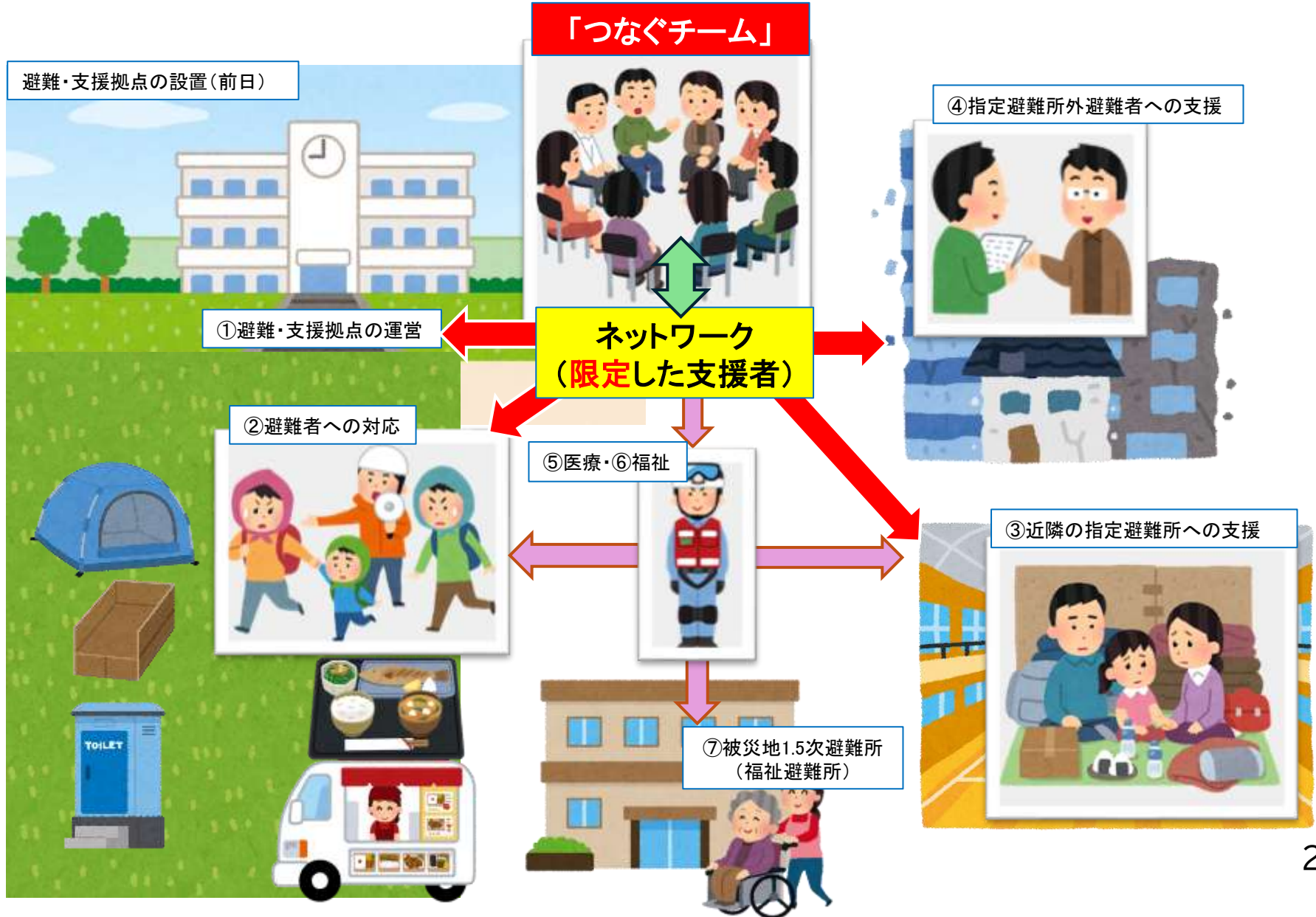
6月4日(木) (株)シェルターワン(実働訓練の拠点設置)

2026年度実働訓練(実証実験)のイメージ

第1日目:発災3日目を想定(拠点は設置済み)

凡例

➡ : 支援の流れ
➡ : 医療・福祉の流れ



2026年度実働訓練(実証実験)のイメージ

第2日目: 発災7日目を想定

凡例
➡ : 支援の流れ
➡ : 福祉の流れ



「つなぐ人・チーム」に関する関係機関協議

- 1 県、県社協の実務者トップによる三者連携会議（協議体制）の設置
第1回：3月18日（水）10：00～12：00
- 2 自衛隊長野地方協力本部長等との意見交換
第1回：4月9日（木）10：00～11：00
※地域防災マネージャーの活用協議
- 3 長野県社会福祉協議会実施の訓練・研修への参加
- 4 長野県危機管理部危機管理防災課との協議

長野県災害時支援ネットワークの取組

被災者支援ネットワーク (中谷共同代表)

※ネットワークに関する取組

- ①幹事会・全体会の開催
- ②組織の改正
- ③構成団体の拡充
 - ・新規団体、企業等
- ④NWのデータベース化
- ⑤初動体制の検討
(標準手順書SOP)

・ネットワークの拡充・強化

災害中間支援組織 (古越共同代表)

※災害中間支援としての取組

- ①日本財団事業
 - ・つなぐ人創出
 - ・訓練(図上、実働)
 - ・分野別検討
- ②フーバー導入事業
- ③他機関情報共有体制
- ④地域連携(上伊那等)

・県域の災害中間支援組織としての機能強化

・「つなぐチーム」の創出